

蒔かぬ種は生えぬ

マタイ10:24~39 / 李正雨師

何かを得るためには、それにふさわしい対価を払わなければならないということは、私たちみんながよく分かっていることだと思います。成績をよくするためには、勉強に時間をかけなければならず、スポーツを上手にするためには、それほど練習に時間をかけなければなりません。私は、この教え、代価を払わなければ何も得ることができないという真理が、私たち人間に初めて与えられた教えだと思います。創世記3章で、アダムとエバは、神様との約束を破り、善悪の知識の実を食べます。その結果、アダムには、いくつかの制約ができますが、一番目の制約は、「お前は顔に汗を流してパンを得る」という言葉です。

エデンの園でのアダムは、代価を払わなくても何でも自由に食べることができました。しかし、神様との約束を破って、エデンの園から退けられたアダムは、頑張らなければ何も得ることができませんでした。エバも出産のためには、苦痛を伴うことになりました。得るために対価を払わなければならないこと、結果のためには過程があるべきこと。これがエデンの園の外、この世で通用されている真理なのです。そして私は、この真理が私たち信徒の信仰生活でも通用していると思います。私たちの信仰生活も、エデンの園ではなく、この世で行われることだからです。今日の福音書は、この信仰生活の中で起こっていることについて語っていると思います。私たちが信仰を持っているため、起こることであり、いくらでも私たちクリスチャンの生活で起こりうることなのです。

今日の福音書は、「弟子は師にまさるものではなく、僕は主人にまさるものではない(24節)」という言葉から始まります。この言葉の意味は、弟子が師を、僕が主人を絶対越えることができないという言葉ではありません。師匠が受けている扱いを弟子が受けることになり、主人が受けている扱いを僕がうけることになるという意味です。ですから、イエス様の弟子として受けることになる扱いも、イエス様と変わることはないでしょう。イエス様は25節で、ご自分がどんな扱いを受けているかを言われます。「家の主人がベルゼブルと言われるのなら、その家族の者はもっとひどく言われることだろう。」ベルゼブルというものは、当時の悪霊の頭を指すことでした。そしてイエス様は、ご自分が行われていることによって、一部の人々から悪魔の頭として扱われていました。今日の福音書の前の章であるマタイによる福音書9章32~34節には、これについての出来事が書いてあります。

イエス様は驚くべきことを行われました。出血の病を患っている女を癒され、死んだ少女を生き返らせました。盲人の目を見えるようにし、悪霊に取りつかれて口の利けない人を癒されました。そして、このような奇跡は、多くの人々を驚嘆させました。日常生活で見ることができないものではなかったからです。しかし、このことによって、ファリサイ派の人々は、むしろイエス様を非難して、けなします。イエス様が悪霊に取りつかれて口の利けない人を癒されると、これは悪霊の頭の力で起こったことだと言ったのです。人々を癒されましたが、言われた言葉は、悪霊の頭、ベルゼブルの力で起こったことだという言葉でした。イエス様は、このようなことがご自分だけでなく、弟子たちにも起こることになると言われます。ご自分が悪霊の頭として扱われたので、弟子たちも同じ扱いを受けるということです。

しかし、このような状況を恐れる必要はありません。人々の誤解や偏見などのものは、真実を覆うことができないからです。すべてのことは明らかに現れることになり、知らされるのです。何が正しかったかは、時間が過ぎるにつれ分かるようになるでしょう。ですから、弟子たちに必要なのは、自分が受けることになる扱いを恐れないことです。真理を植えたので、もうすぐ真理が芽を出し、実を結ぶでしょう。それを耐えて待つのが、弟子たちがしなければならないことでした。私が先に何かを得るためには対価を払わなければならない、これがこの世での通用される教えだと申し上げました。真理のことも同じだと思います。イエス様の言葉が現わされるためには、私たちクリスチャンが払わなければならない対価があると思います。それが何にあっても、誤解であっても、プライドであっても、名誉であっても、さらに殉教であっても、状況と

必要によって、弟子たちは対価を払わなければならないのです。それでイエス様はこう言われます。28節の言葉です。「体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい。」

この言葉は、この世より恐るべき神様を恐れなさいという言葉ではありません。この世の評判などを意識したり、恐れたりしてはならないということです。私たちが意識しなければならないのは、この世の誤解と評判ではありません。イエス様と真理の言葉、これを意識して生きることがクリスチャンの人生だと思えます。そして神様は、このように真理のため、代価を払う人々を捨てておかないでしょう。今日の福音書第30節で、イエス様は、神様は「あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている」と言われます。私たちがこの世の評判と誤解の中から守ってくださるのです。私たちが植えた真理が無駄にならないように、クリスチャンとして生きてきた時間が否定されないように、私たちのことを守ってくださいます。そして今後、私たちは神様の御前でイエス様の友として認められるのです。私たちがこの世でイエス様の友になり、イエス様に従って生きていたからです。

しかし、その過程は決して簡単ではないでしょう。この世でイエス様の友として、クリスチャンとして生きる過程で、私たちは、イエス様が受けた誤解を受けることもあります。これだけでなく、私たちが持っている信仰によって、いろいろな不和が起こることもあります。そしてこの不和は、私たちが最も大切に思っている所でも起こることがあると今日の福音書は語っています。今日の福音書34節以下の言葉は、信仰によって起きることになる家族の分裂についての言葉です。家族の分裂とは！家族中心の社会を生きていく私たちにとって、この言葉のように厳しい言葉はないでしょう。いくら信仰が大切だと言っても、家族の分裂を起こしながらも、信仰を守りたくなる人はいないと思えます。しかし、今日の福音書には、家族の分裂についての言葉が書かれています。この言葉を私たちはどう受け入れればよいのでしょうか。

この言葉は、イエス様が旧約聖書のミカ書7章に書かれている言葉を引用したものです。預言者ミカは、神様に従っていない権力者と民の過ちを告発します。そして、彼らの家族が分裂することになり、その分裂によってイスラエルは、回復と救いを受けることができると預言します。つまり、神様の言葉が一部の権力者によって御言葉の役割を果たすことができなくなると、神様は分裂という方式を選ばれたのです。分裂を通してイスラエルに真の御言葉と救いが臨まれるようにしたのです。イエス様がこのミカ書の言葉を引用したのも、同じだと思います。イエス様による分裂は、家族を分けることに目的があるわけではありません。過去の分裂を通して神様の御心が伝えられたように、イエス様の分裂を通して改めて神様の御心が伝わるのです。分裂によるイスラエルの回復と救い。イエス様は今日の福音書でこの分裂を言われたのです。

過去、日本や韓国に福音が入った時も、このような分裂と葛藤がありました。もし分裂と葛藤がなかったら、家族が一つになって福音を拒んだら、宣教は、私たちの所で失敗として終わったでしょう。しかし、分裂は起こり、その分裂の中には、神様の言葉と救いがありました。そしてその実によって、こんなに多くの教会とミッションスクールが建てられるようになったのです。蒔かない種は、決して芽が出ません。分裂があるということは、私たちの中に信仰が蒔かれたということであり、その信仰は、必ず芽を出して実を結ぶでしょう。神様は創世記の言葉によって、得るためには対価を払わなければならないと言われました。私たちのところで起こる分裂は、救いを得るための対価になるでしょう。神様が容易ではない道を歩いている皆様と共におられますように。皆様の犠牲にふさわしい対価が与えられるように、主の御名によって祈ります。アーメン